

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自ら利用者の立場になり、どのような生活をしたいか、何を望むのかを職員間で話し合い、理念を作り上げている。理念を意識しながら業務に取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は苑内の見やすいところに明示をしている。申し送り・ミーティングで理念に基づいた話し合い、共有をし、意識をしながらケアを行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の行事に参加したり、ボランティア・運営推進会議を通じた交流の中で、理解をしていただけるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/> これからも運営推進会議のメンバーや地元の職員を通して、地域行事に参加をし、地域の方々と交流を深め、今後も地域に理解を求めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事への参加や、買物・散歩などの機会を通して、近隣の人たちとの交流を持ち、苑に対して親しみを持っていただき、気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりを行っている。	<input type="radio"/> 今後も継続をし、近隣の方たちと日常的に関わっていけるように心がけたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の運動会、お祭りをはじめ、長寿会の運動会などにも参加している。また、町内文化祭では、作品の出展も行い、地域との交流ができるように努めている。	<input type="radio"/> 今後も地域の行事等への参加を行い、地域との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩時にゴミ拾いを行っている。高齢者や認知症になっても地域の役に立つことができ、社会参加できるよう取り組んでいる。また、地域の方々にも理解を深めていただけるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、ケアに活かされるように意見を出し合って、改善・サービスの向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーから、地元行事の情報をいただいたり、苑での取り組みの報告や質問・意見・要望を聞いて、サービスの向上に努めている。	○	今後は会議を活かした双方の意見交換を行い、サービスの向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当課に相談をしたり、意見をいただいたりして、情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解はしているが、現在必要な方がいないので、活用していない。研修や勉強会等で学び、必要時には活用し支援していきたい。	○	今後に向けて、勉強会等で学ぶ機会をつくっていき、必要な人には活用した支援ができるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について見過ごすことがないように、職員が強い意識を持って防止に取り組んでいる。	○	虐待をしない・させないという意識を持った上で、関連法について学ぶ機会を持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・解約時に利用者及び家族の不安・疑問点を十分に引き出し説明を行い、納得された上での契約を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションをとり、言動や態度、行動等で察するように常に注意をして接している。また、苦情に対する措置・ホーム内担当者・外部苦情申し立て機関について掲示している。利用者から意見や不満を伝えやすい雰囲気づくりや、伝えられる場の提供を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、お便りを発送している。遠方におられるご家族には、それに加え近況報告で、健康状態や暮らしぶり等を伝えている。金銭管理をしている方については出納帳のコピーを送っている。	○ 病院受診の経過報告や、金銭管理についての報告も行っているが、家族の意見が活かせることができるような工夫もしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来苑時にはお話しする機会を作り、意見等を聞いている。また、事務所前にご意見箱を設置し、いつでも記入していただけるようにしている。	○ 家族等が気軽に色々と話せる機会を作り、不満や苦情・意見等を反映させ、サービス向上に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者と職員が話をする機会は多く設けられている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて業務を見直し、必要な職員数を確保することで、利用者の希望に添ったサービスができるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最低限にとどめている。また、全利用者とは偏ることなく関わりをもち、馴染みの関係を築くようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	苑内での勉強会を行ったり、通知のあった研修には積極的に参加をしている。	○	今後も継続し、働きながら、個々の知識・技術の向上ができるように配慮していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他施設での運営推進会議や研修に参加をし、同業者と交流する機会を作り、勉強している。	○	今後も交流の機会をもっと増やし、勉強会やネットワークづくりをし、サービスの向上に努めていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	徳島市勤労福祉センターに入会し、福利厚生で充実を図っている。勤務希望を取り入れた勤務体制づくりをして、有休も使いやすく、休養が取れるような環境づくりに取り組んでいる。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	評価表を利用し、個々の努力を給与に反映し、個々の意見の反映などで向上心をもって働けるような環境づくりに努めている。	○	今後は組織全体の向上に向けて、職員の努力や実績を身近で把握し、意見の反映ができ、各自が向上心を持って働けるよう努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談の際、ご本人の現況・今後の希望等を聴く機会づくりを行い、できる限り受け入れられるように配慮し、信頼関係を築いていくように心がけている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談の際、ご家族の困っていることや不安に思っていること等を聴く機会を設け、できる限り受け入れ、取り組み、信頼していただけるように入所のしおりを通して説明し、納得していただけるように努めている。	○	利用者同様、ご家族が安心できるように意見を取り入れながら、サービス向上に努め、信頼関係を築けるように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中で、要望や思いを十分に理解し、一番優先されるサービスを中心に提案するようにし、他のサービス情報の提供や紹介も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	苑での生活は、無理に勧めたりするのではなく、本人の生活リズムに合わせるようにする。また、居室に今まで使用していた馴染みのあるものを持ち込むなどの配慮をすると共に、家族と相談をしながら、他利用者・職員・環境に1日でも早く馴染めるように工夫している。入居前には、必要に応じて見学・体験入居等行えるようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、一緒に調理や清掃等の家事や、手芸、菜園等の軽作業を行いながら、信頼関係を築き、支えあえる場面づくりをしている。	○	本人ができた場面では、一緒に喜び合ったり、さりげなく褒めたりし、自信につながるように声かけ支援したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時を利用しながら、コミュニケーションを図り、現状報告や、意見・希望等話し合い、一緒に利用者を支えていく関係を築いている。	○	今後も継続して、家族との信頼関係を深めていき、共にご本人を支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活環境や、ご本人の生き立ち等を聞き取る機会をつくり、これからのご本人とご家族とのより良い関係づくりに役立っている。また、家族会や面会時等の機会にも家族だけで過ごせる時間や場面づくりを行い、良い関係が築けるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人から、馴染みの人や場所の情報を収集しながら、面会や電話の受け入れの機会を作ったり、その場所の話をしたり、出向くなどの支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が過ごせる場面づくりをしたり、利用者同士、助け合いができるよう支援している。また、利用者個々が孤立しないよう職員が利用者同士の橋渡しを行い、関わりが持て、支えあえるような関係ができるように支援している。	○	利用者一人ひとりが安心して、楽しく生活していけるようコミュニケーションの場を増やし、関わり、支えあえる関係づくりを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了された家族の方にも、行事案内を送らせていただいたり、連絡をいただいたりしており、関係を断ち切ることはしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の希望を把握し、できる限り、意向に沿えるように努めている。困難な場合は本人本位に検討し、利用者個々の趣味や生活リズムを大切にした支援を可能な限り行っている。	○	日常の会話の中で一人ひとりの希望や把握に努め、残存能力に合った自立援助が行えるように見守りながら支援を行う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者本人、家族より情報収集を行うとともに、前施設・病院等よりの情報も参考に把握に努めている。また、コミュニケーションを図っていく上で情報収集するようにも努めている。	○	利用者の経験や大切にしてきたもの等を把握し、できる限り、その人らしい生活が送れるように支援していききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	総合記録表を利用し、利用者個々の健康状態、有する力等を把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意見や希望を取り入れ、担当者会議やミーティング時に担当者を中心に十分に話し合い、個々に合わせた介護計画を立てている。	○	今後は担当者会議に家族や利用者の参加を呼びかけ、それぞれの意見を反映した介護計画の作成を行いたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録・業務日誌・申し送りノートを活用し、必要な情報を共有できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援項目が一目で分かるよう、サービス情報提供表を利用している。また、毎日の様子やケア内容を詳細に記録し、情報の共有を行い、今後の介護実践へ反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じ、協力医の意見、他医院・他施設との連携を図り、柔軟な支援体制を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、消防・警察等にも働きかけ、利用者の安否の見守り等をお願いしている。また、民生委員やボランティアの方との協力しながら支援している。	○	災害に対する協力体制はできている。今後も、地域資源やボランティアの活用をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人・ご家族の意向や必要性に応じ、地域の他事業所との連携を図り、できる限り反映されるように配慮している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、対応し、相談など行っており、今後は運営推進会議にも参加していただく予定である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院だけでなく本人や家族等の意向を踏まえ、以前からのかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療支援を行っている。	○	今後も本人や家族の意向を踏まえた医療を支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週2回の協力医院の往診に加え、週1回、専門医の往診があり、職員や利用者、ご家族から相談することができ、アドバイスをいただけるようになっている。	○	引き続き連携をとり、支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑の看護職員が利用者の日常の健康管理を行い、健康状態を把握したうえで、変化に迅速に対応できるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院中は面会を重ね、安心して過ごせ、なじみの関係が継続できるように配慮をしている。また、病院関係者との連携を行い、情報交換を行うことで、早期退院や退院後の生活がスムーズに行えるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、あるいは終末期の指針を作成しており、今後必要に応じて、かかりつけ医の協力のもとで行っていく方針である。	○	今後必要が生じた場合、協力医を交えて早期に家族等と話し合いを持ちたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重度化、あるいは終末期の日々をよりよく暮らせるよう、協力病院や看護師を交え、医療連携の支援体制は整えている。	○	今後必要が生じた場合は協力医とともに、チームとしての支援を行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人、家族の意向にできる限り沿えるように、関係者と話し合いや情報交換を行っていき、住み替えのダメージを防ぐようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々のプライドやプライバシーに配慮した声かけや対応を行っていくように、全職員が取り組んでいる。また、個人情報についてはむやみに持ち出さず、管理を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者本人のしたいことや欲しいもの等、その都度自分で決定できるよう説明を行い、納得して暮らせるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のこれまでの生活習慣等を把握した上で、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、個々の自己決定した事柄に、できる限り沿うよう支援している。	○ 継続して、苑の都合ではなく、個々の希望に沿う生活を支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院がある人には、希望するところへ行っている。また、出張美容なども利用している。洋服選びや、お化粧など本人の希望通りのおしゃれができるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々のできる力に応じて、スーパーでの食材選びや調理、また配膳・盛り付けをしたり、後片付けを行っている。また、職員も共に食事をし、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の好みの飲み物・おやつを一緒に買いに行っている。一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量・栄養バランスを把握し、苑の栄養士・看護師と相談しながら可能な限り、好きなものを提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	○	今後も利用者個々の力や状態に合わせ、気持ちよく排泄ができるよう、支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する人には毎日の入浴が可能である。また、仲の良い利用者同士で入浴されることもあり楽しい入浴時間を提供できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、一日の生活リズムをつくり支援している。また、夜眠れない利用者には、何が原因で安眠できないのかを検討し、改善できるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが自分にあつた役割や趣味などを楽しめるよう支援をしている。	○	自分ひとりで決めたり、目標を持ったりした場合には、そのことを大切に、できる限り希望をかなえるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて、買物時・受診時の支払い等が自分でできるよう支援している。入居者が金銭の管理ができない場合には、家族と相談し、こちらで管理させていただく。その場合には出納帳とレシート・領収書を利用し、支出の内容を家族に明らかにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々に応じて、買い物・外食・ドライブ等の外出の機会をつくっている。また、本人や家族の希望があれば、希望場所への外出支援を行っている。	○	今後も外出する機会を持ち、外部の環境に触れ、社会に溶け込んだ生活ができるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者にとって馴染みの場所やお墓参り、また、行きたいと思っている場所を把握し、職員と家族が相談しながら出かけられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、苑の電話を使用してもらっている。できない人は、職員が支援している。手紙についても、個人的なものや年賀状など、常時やり取りができる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人が訪問しやすい雰囲気づくりを行い、本人と自由に居室で過ごせるよう気配りをしている。また、訪問者が本人・利用者の友人・職員を交えて会話ができる環境づくりも行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の意味を職員全体で熟知・考慮し、見守りするケアを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間には玄関と窓は施錠するが、居室へのドアは本人の希望時のみ施錠する。日中は、見守りを中心とするケアを行い、玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の意思で生活していけるよう、行動の見守りやサポートを行い、常に所在確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	能力・希望に応じて、本人が管理している。しかし、危険が予測される物品については、本人の了解を得たうえで、こちらで管理させていただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者それぞれの身体状態や性格・行動を把握し、それぞれに応じた対策を行っている。また、利用者の身体異常時・行方不明時・火災時のマニュアルを作成し、事故防止に努めている。	○	利用者それぞれの身体状態により、その都度対策を考え、実行していく。また、職員はマニュアルを把握し、その時に応じて、応用しながら事故防止に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当等の講習や実習は受けているが、実行できる職員は少ない。利用者の病状をしっかりと把握し、起こり得る急変や事故に対応できるよう、訓練を行う必要がある。	○	今後も、実習や講習を受講し、事故発生時にすべての職員が対応できるよう、取り組んでいきたい。また、緊急時に備えて、AEDを設置予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施し、災害時の避難方法を身につける努力をしている。また、運営推進会議を利用し、地域・近隣の方にも災害時の協力をお願いしている。	○	実際に地域の方々を含めた訓練も、今後行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人・家族の希望する生活を実現するため、個々の状態を職員全員が把握し、快適な生活ができるよう、家族と共にリスクへの対応策を検討している。	○	起こり得るリスクを家族と十分に話し合い、今後も抑圧感のない暮らしができるよう、家族と共に考え、実行していけるようにしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行いながら、顔色や表情・姿勢などに注意し、異変の発見に努めている。変化時には、申し送りノートに記録し、情報を共有することで、速やかな対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により、服用目的・用法が把握できるようになっている。服薬確認は、毎回職員が行っており、変化があれば、医師に連絡を取れる体制は整っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者個々の便秘の原因を考察し、改善に努めている。また、水分補給や食物繊維の摂取を行い、軽運動を取り入れている。排便の有無・量等は総合記録表に記入し、必要時には下剤の服用や浣腸を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ・介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は、定期的に義歯洗浄剤による洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	職員のマニュアルの把握を徹底し、感染症を予防する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○	訪問者を気持ちよく迎えられるよう、心がけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人・家族・職員で居心地の良い住まいづくりに配慮している。また、本人が、家具を移動させ気分転換を行っていることもある。安全面に配慮しながら、利用者・家族と相談を重ね、心地よい空間づくりへの工夫を行っている。	○	利用者の希望により、居室内に本人の作品や写真を飾ったり、生活しやすい家具の配置を行い、我が家として暮らせる環境づくりをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	除湿・加湿などを行いながら、室温調節を行っている。また、体調に合わせて調節を行っている。本人が居室におられない時には、窓を開け換気を行っている。気になるにおいのある部屋には消臭剤も利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで木材を使用し、広い廊下には手すりが設置されている。居室出入口も歩行器や車椅子が充分に通れる広さである。居室は八畳の個室で、プライバシーは守られている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・洗面所は大きく表記してあり、できるだけ声かけ・誘導による見守りの体制をとっている。また、利用者が混乱したり、失敗によって自立心を失わないよう、利用者の自立に向けた支援を工夫している。	○	利用者それぞれの自立心や積極性を引き出し、自立した暮らしが送れるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭には花壇や畑があり、花や野菜の成長を見たり、手入れをし、収穫することができる。また、外周りには散歩や運動・レクリエーションを行えるスペースもあり、テーブル・ベンチを設置し、活用している。また、能力に応じ居室、ベランダで洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・旧吉野川のほとりにある木の建物で、季節感を大切にしながら、自宅に在るかのような感覚で生活をしていただいている。
- ・入居者様お一人おひとりに対して「できること探し」を行い、いつまでも生きがいと役割を持った生活を送れるよう、職員はさりげないサポートを心がけている。また、そのことが、認知症の進行を緩やかなものにしておりと自負している。
- ・車椅子を利用しているほぼ全介助の入居者様にも、自立の方と同じように外出の機会を設け、社会とのつながりを大切にしている。
- ・季節の行事を大切に、昔を振り返りながら楽しめるようにしている。また、夏季には花火大会等夜間行事も行っている。
- ・ホーム内には季節感を取り入れた掲示物の展示を行い、ホーム内でも季節を感じる事ができるようにしている。また、入居者様と職員が共に掲示物の作成を行い、和気藹々とした雰囲気で作成している。
- ・ホームの敷地内に庭や畑があり、入居者様が自由に出入りできるようになっている。庭ではレクリエーションや日光浴・おやつが楽しめるよう、テーブルとベンチを設置し、また、畑では家庭菜園に取り組み、入居者様と共に季節の花や野菜を育て収穫し、玄関に生けたり食材に活用したりしている。